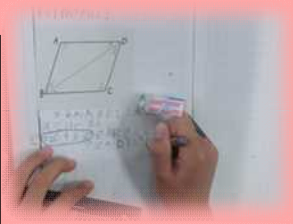
平成 30 年度　7月5日（木）

REPORT　東部教育事務所

第2回　授業づくり講座　授業研究会

香南市立野市東小学校

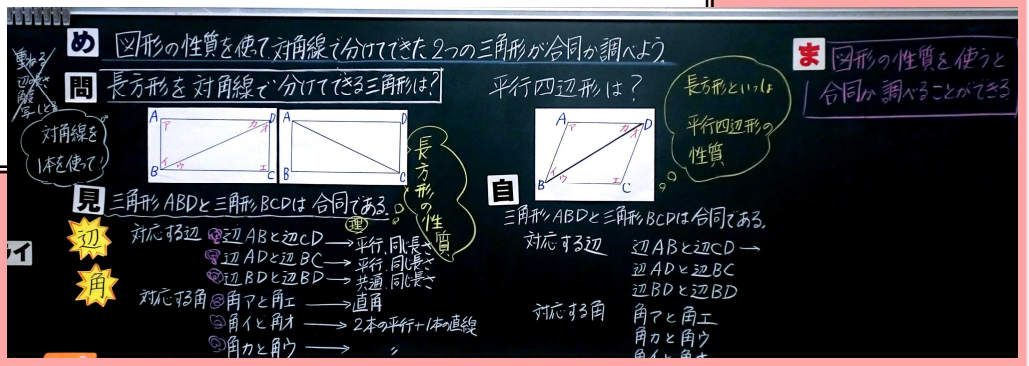
第５学年「合同な図形」濵地　裕子教諭



【本時の授業提案】

７月５日、野市東小学校で授業研究会が開かれました。５月の教材研究会では「合同な図形」の導入場面の模擬授業を行いましたが、その後の協議、齊藤先生の講話より、本時は基本図形を対角線で分けた図形の合同を調べる時間としました。前時の動的定義（回転させたり、移動したりして確かめる）を受けて、本時では基本図形を対角線で切り、動かさずに合同かどうか調べる方法を考えました。

教科書とは違う授業展開の提案でした。



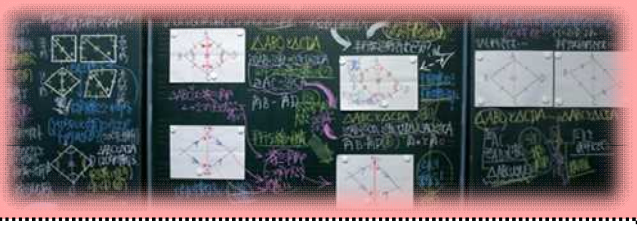
リフレクション

研究協議では、「既習を使って学びに向かうようなめあての設定と学習の流れ」等について協議しました。「本時のめあてであった図形の性質を授業者はどのように捉えていたのか。」「めあてはよかったが展開が中学校の証明のようになってしまったのでは。」「錯角を５年生の児童に思考させるのは非常に無理があるのでは。」「前時を生かし導入を短くすると 45 分で終わったのではないか。」といった意見が出されました。

学力向上総括専門官より

①単元カリキュラムの重要性

本時のみを再考すると、無理がある授業展開になってしまう。第１時からのデザインを再考することが大切である。



②提示する図形の重要性

なぜこの図形なのかということを授業者がしっかり持っておく。提示する図形は特殊すぎても、一般的すぎてもだめである。本時で長方形を提示したが、まずひし形で思考し、その後平行四辺形で比較するとよい。

◆参観者より

○高学年になればなるほど、低学年からの積み重ねが多く関係してくることを改めて感じることができました。小学校での系統性とともに、中学校の学習内容にも目を向ける必要性を感じました。

○特に、算数が苦手な子供に対して、授業が「子供ファースト」になっているのかどうかを考えていきたいと思います。

○日々の教材研究を大切にし、算数の大切な基礎の部分を教師がつかめていないと、子供達に分かる授業ができないということをつきつけられました。

○何が分かっていて、何が分からないのかを児童に明確にさせることの大切さ、前時までに本時の布石を打つこと、系統をしっかりおさえておくこと、これまでの学習内容を生かすこと、思考の流れを考えることなど、たくさん学ぶことができました。

次回の野市東小学校での講座は、<u>８月２０日（月）１３：３０～</u>です！ぜひご参加ください。